

経営理念	教育目標	すこやか やすっこ げんきなこ
	経営目標	『幼児の育ちを大切にし、豊かな体験を通して生きる力の基礎を培う幼稚園』をめざす
	〈子ども像〉	○友達と仲良く遊べる子ども ○たくましいからだの子ども ○きまりや約束の守れる子ども ○思いやりのある子ども ○よく考え工夫する子ども
	〈幼稚園像〉	○子どもがいきいきのびのび楽しく生活する幼稚園 ○基本的生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園 ○友達同士つながり自主性や社会性を身につける幼稚園 ○豊かな心情や創造性が身につく幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園 〈教師像〉 ○幼児の心に寄り添い、共に行動できる教師 ○楽しい教育活動を工夫する教師 ○幼児の意欲、可能性を引き出す教師 ○互いに協力してチャレンジする教師 ○豊かな人間性と指導力の向上に努める教師

中期経営目標		短 期 経 営 目 標 (評価項目)	自 己 評 価		学校関係者評価		改 善 策 等
			達 成 状 況	評 価	考 察	評価	
適正な幼稚園運営	○ 園務分掌等が適切に機能し、子どもたちのために教職員が互いに協働する風通しの良い幼稚園を構築する。	① 日々の保育を振り返り記録をもとに評価・反省を行いよりよい保育を実践する。	毎月の指導計画をカリキュラム会で話し合い、職員間で共通理解ができた。また、週日案の会で評価反省をもとに話し合い共有してきたことで、ねらいをもって連携のとれた保育ができた。しかし、行事や研修で時間の確保が難しく、話し合いが不十分なこともあった。	B	昨年度の反省から、情報共有することでねらいをもって連携のとれた保育ができたことは評価できる。職員数から考えると時間確保の難しさはあるが、行事や研修、適正な業務量になる工夫と改善に努めてほしい。	B	来年度は職員数も増える中での運営ができるので、短時間で効率的な話し合いができるような時間設定と工夫、改善をしていく。
		② 自己発揮しながら、友達との関わりが深まるような環境を工夫する。	子どもが楽しんでいることを捉え、環境構成することができた。保育者が用意した教材で子どもたちは、友達や保育者と一緒に考え、工夫して遊ぶことができたが、遊び慣れたもので遊びたい子どももいたり偏りも見られた。園庭の環境や援助について考え、図面に書き、担任以外でもわかるようにすることで、保育がつながりやすくなった。	B	子どもたちが一緒に考え工夫して遊びを作りあげている姿が特に行事で見られた。そのため保育者の援助や環境構成は十分配慮されたものであると考察する。また、環境構成等を視覚化する工夫が成果につながっている。	A	個々の活動と集団活動の保障をバランスよく行いながら、自己発揮できる場の設定に引き続き取り組んでいく。
		③ 一人一人の子どもの特性や発達に適した援助を行う。	ティーチャーズトレーニング研修で学んだことを引き続き実践することで、職員間で一人一人の子どもの特性や発達、どう関わり支援をしたのか支援方法を共有することができ、同じ対応や関わりができるようになった。好ましい行動をほめることに目を向けることができるようになった教職員が75%以上。また、子ども同士も互いを認め合う姿が多くなった。	A	研修や話し合いなど高い意識をもって実践でき、保育者のスキル向上だけでなく、子どもにとっても、互いに認め合う等、良い効果を上げている事は評価できる。	A	職員間でティーチャーズトレーニングの支援方法を広げ、園全体で取り組んでいけるよう互いに学び合う場を設けていく。
充実した教育課程	○ 幼稚園教育要領の内容に沿った教育活動と、幼児の発達に即した指導を展開し、生きる力の基礎となる心情、意欲及び態度を育てる。	① 防災対策と安全教育の向上に一層努める。	年間を通して様々な想定で訓練を行うことができたが、預かりや早期保育時の訓練が1回しかできなかった。「園は防災教育や園舎環境などの安全対策に取り組んでいる」と答えた保護者が95.8%。ほとんどの職員が、声を掛け合ったり臨機応変に行動することができた。	B	計画的に実施することはできているため、想定の日間帯を工夫してほしい。高台移転をしたが、防災に関しては終わりが無いのが事実であるため、これからも引き続きいろいろな想定を考え進めてほしい。	B	こども園での生活が3ヶ月たち、さらに安全性を高めるために運動広場への訓練を視野に入れるなど、訓練の時間の工夫や想定を増やす等を含めマニュアル等の見直しにもつなげていきたい。
		② 保幼小中の連携の充実に向け、子どもの育ちや学びをつなげる取り組みを充実させる。	小学校との交流活動は、お互いのねらいをもち事前事後の話し合いができた。また、5歳児だけでなく4歳児も4年生との交流が再開できて来年度へとつなげることができた。研修会や事前事後の報告は職員間で十分共有できなかった。	B	適正な幼稚園運営①と同じく、適正な業務量になる工夫と改善に努め、十分共有できる時間確保に努めてほしい。連携・交流についてはこれまでの非常に良い取り組みや効果があると考えられるので大切にしてほしい。	B	高台移転により小中学校と隣接でなくなったため、意識した連携の取組を再構築していく。中学生までの子どもの実態を知り、育ちに合った関わりをつなげていきたい。共有のための時間確保は、意図的に職員会の議題に入れるなどしていく。
信頼される幼稚園	○ 保護者や地域に開かれた幼稚園づくりに努め、信頼される幼稚園を確立する。	① 保護者や地域に対して積極的に、情報発信を行い、保育の意図や子どもの育ちを共有する。	おたよりやクラス懇談、送迎時を利用し、職員が保護者に子どもの姿と共に楽しんでいることや経験していることを伝えることができた。行事後のアンケートや評価アンケートからも子どもの成長を感じる感想が多く寄せられ、保護者と共有できた。日々の保育の様子や成長がわかるおたよりを多く発信することもできた。反面、業務量が増えたことと、ドキュメント（写真とコメント掲示）を活用するタイミングが遅くなったことは課題である。	B	高台移転したことにより、立地条件を考えると新たに地域との交流や情報発信を積極的にすることが重要であると考えられる。保護者に対しては十分な発信や共有ができている。	B	子どもの良さや育ちつつある姿をしっかりと伝え、これまで通り便りを地域に回覧したり、隣接する高齢者施設にも今後配布したりする予定である。便りとドキュメントの作成は内容によってタイミングも考慮しバランスよく情報発信に努めていく。
		② 保護者と連携し、感染予防と衛生管理に努める。	手洗いに関しては、看護師の手洗い指導や絵本・紙芝居を通して必要性を伝えることで、自ら進んでできるようになった。徐々に感染症対策について緩和されていることもあり手指消毒を行う姿が減ってきているが、検温表に体温だけでなく他症状も記入してくる等、保護者の健康面への意識は高まった。職員は子どもの健康状態について注意深く観察し看護師に相談して適切な対応に努めた。	B	保護者の意識も高く、引き続きの取組の成果である。感染症に関して緩和されているのは人の考えや環境だけでなく、感染症そのものは変わっていないため今後も引き続き適切な感染対策にを促せるようお願いしたい。	A	感染予防に引き続き努めると共に、手指消毒など衛生についてはマンネリ化している家庭もあるので、啓発を継続していく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要